

九重及花牟禮兩火山地質調查報文

囑託員・理學士 納 富 重 雄

第一章 位 置

九重火山群ハ地質的阿蘇水道 (Aso geologic channel) ニ沿ヒ噴起シタル者ニシテ西南ニハ六里餘ヲ隔テ、彼ノ龍大ナル阿蘇火山ヲ控ヘ東北ニハ花牟禮火山ヲ擁ス、而シテ豊後富士ノ稱アル由布及鶴見兩火山群ト相呼應シツ、聳立シ、其海拔高距ヲ比スレバ遙カニ兩者ヲ凌駕シ就中アキウチサ久住山 (Akujisan 小藤博士推舉ニヨ) ノ如キハ海拔一、七八七・九〔メートル〕ニシテ實ニ九州島中ノ最高峰タリ。

其跨レル地域ハ豊後國直入郡久住村、同都野村、同阿蘇野村及玖珠郡飯田村ノ相接スル地方ニシテ其西端ニ位スル湯坪火山群ノ一部ハ既ニ肥後國阿蘇郡ニ入ル。

第二章 九重火山群四邊ノ地貌

(c) 西斜面 湯坪火山ノ西方外側ノ緩傾斜ハ其儘ニ凌夷シ了ラズシテ又不規則ナル地形ヲ見ム、此レ主ニ阿蘇鎔岩及其レヨリモ古期ニ屬スル諸岩石ニヨリテ構成セラル、殘丘ノアルガ爲ナリ、而シテ又(d)西北遙カニ釋迦ケ嶽火山臺地々方ヲ望ム、其前面ノ地域ハ筑後川ノ上流地ニ屬セリ。

(e) 北斜面 坦々トシテ些ノ起伏ナク地方奇景ノ一二數ヘラル、千町無田 (セシキヨムタ 無田トハ沼澤地ノ意ニシテ往時ハ濕地ニテ只雜草ノ蔽フニ任ニア) ト稱スル美ナル裾野ノ發達ヲ見レトモ (其東方ニ花牟禮火山ハ又崩平山 (クエンビラヤマ 角閃アンデン) ノ聳立スルアリ、而シテ該地域ハ獨リ玖珠川ノ浸蝕ヲ悉ニスル所ニシテ其水源涵養地ノ第一ド

南斜面 多少ノ起伏ハアリト雖モ均齊ナル裾野ノ發達ヲ示シ火山特有ノ地貌ヲ有セリ、(a)其南方ニ位スル久住原ノ如キハ實ニ標式的裾野ノ發達ヲ示セリ、而シテ緩傾斜ハ南方ニ向テ凌夷シ終ニ竹田盆地ヲ見ルニ至ル、且該盆地ヲ中間ニ擁シテ遙カニ祖母岳、傾山 (延岡圖幅ニ入ル) ノ東西ニ連瓦シテ峭壁ヲ成セル連嶺ヲ眺ムヘク、(b)西南ニハ阿蘇火山ヲ控エ、サレバ兩火山ノ裾野ハ相接シ傾斜互ヒニ漸移スルヲ以テ兩者ノ間ニ判然タル劃線ヲ描カシコト殆ンド不可能トイフモ敢ヘテ過言ニハ非ルベシ、而シテ該地域ハ大野川ニ注入スル諸支流ニヨリ浸蝕セラル。

シテ推スベキハ上記千町無田ノ平原ナリ。

(f) 東斜面 該方面ニハ東北ニ花牟禮火山ヲ控ユルヲ以テ他ノ三面ニ於ケルガ如ク均齊ナル裾野ノ發達ヲ見ムコト難シ、然レドモ花牟禮火山ヲ中心トスルトキハ其東南ニハ阿蘇野川ノ灌漑ニ浴シ今ハヨク開墾セラレタル阿蘇野地方ノ裾野ヲ見ルベケンモ其南方ニハ直チニ常磐嶽ノ隆起スルアルヲ以テ九重火山群ノ南斜面ニテ見ルガ如キ廣大ナル裾野ノ發達ハ之ヲ見ルヲ得ズ。

前記花牟禮火山群ノ東端ニ位スル時山及熊群山ヨリ東方ハ大分川ノ本流ノ浸蝕ニヨリテ發達シタル帶狀ノ平野ヲ見ルベク中間雲霧ノ之ヲ遮ルコト無クムバ視界ノ及ブ限り其視慾ヲ妨グルモノナク晴天ニハ遙カニ帶水ノ如キ豐後水道ヲモ眺メ得ベシ、眼ヲ轉ジ一度北方ヲ望マンカ由布鶴見火山群ノ聳立スルアリテ其レヨリ以北ハ見ルヲ得ズ。

之ヲ要スルニ九重火山群中ノ諸峰ハ其海拔高距ニ於テ遙カニテ視界ヲ遮ラズシテ殆ド脚下ニ之ヲ見ルノ感アリ。

第三章 九重火山群ノ地形

【第一節】 山 相

北方千町無田地方ヨリ見タル九重火山群 第一版ニ示スガ如ク千町無田ノ坦々トシテ綠氈ヲ敷ケルガ如キ平地ニ立チ南方ニ巍然トシテ聳立スル九重火山群ヲ見ルニ其雄大觀ル者ヲシテ歎歎措カザラシムルモノ此一小縮圖ニテモ知ラルベシ、即チ缺頂圓錐形ノ黒嶽、圓錐形ノ平治岳（大船山ハ平治岳ノ後）、三個ノ峰頭ヲ有スル三俣山（久住山及本山モトヤマハ）此後方ニ隠ル、九重山ノ一部（三俣山トノ孔ノ噴煙及峰頭ノ稍々不規則ニ成レル左方ノ黒岩山、右方ノ泉水山（湯坪火山ノ他ノ諸モトヤマ）ノ如キ殆ド不規則ニ聳立シ以テ此等諸山噴出當時ニ於ケル火山活動ノ如何ニ熾シナリシカラバシム。

南方久住原ヨリ見タル九重火山群 飜テ南方ノ裾野ニ立チテ九重火山群ヲ仰ガシカ北方ヨリ見シトキニ後方ニ隠蔽セラレタル諸山ノミヲ見ルベク（第二版参照）、就中久住山ハ一見其火山ナル事何人ニモ肯定セシムルニ難カラズ、本山ハ少シク不規則ナル形ヲ示セドモ其前方ニ大爆裂火口址ヲ有スルヲ以テ其山ノ性質ハ知ラルベク、大船山ノ「米窪」火口モ亦明カリ（第二版参照）之ヲ認ムルヲ得ベシ、尙本圖ニハ之ヲ缺ケドモ久住山ノ左（西）ニ當リテ九重山南端ノ一峰肥前ヶ城ヲ見ルヲ得ベシ、而シテ其雄大ノ點ニ於テハ北方ニ於テ見タルモノニモ劣ラズ、就中前面ノ廣漠タル裾野ノ發達ニ至テハ到底前者（千町無田）ノ及ブ所